

日曜大殿説教

信のすがた

く心のありようく

令和元年八月十八日 午前九時
大本山増上寺大殿

天然寺住職 後藤 尚孝





「日曜大殿説教 八月十八日 午前九時〜十時
信のすかたし心のありよう」
東京教区 天然寺 後藤 尚孝 上人

讚題

「佛心とは、大慈悲是れなり」

一、信をおこ発す

この度こそは必ず往生するぞと思ひ定めべき
です。受けがたい人の身としてこの世に生をい
ただき、遇あいがたい念仏往生の教えに巡り遇い、
苦しみの多いこの娑婆世界を厭い、極樂を願う
氣持おきちが發たのです。阿弥陀さまの本願は誠に
慈悲深く、私たちの往生はもはや阿弥陀さまの
御心のうちに委ゆだねられているのです。決してお
念仏を怠ることなくつとめ励んで、必ず往生す
るのだということをお知りになるべきです。

〔熊谷の入道へつかはす御返事〕

（九月十六日付）

・昭法全五三七

二、信のすがた

◆ 信をそなえる ◆

浄土に往生しようと思す人は、あんじん安心・きぎょう起行と申しまして、
心と行いとが相い忘じるようになすべきです。

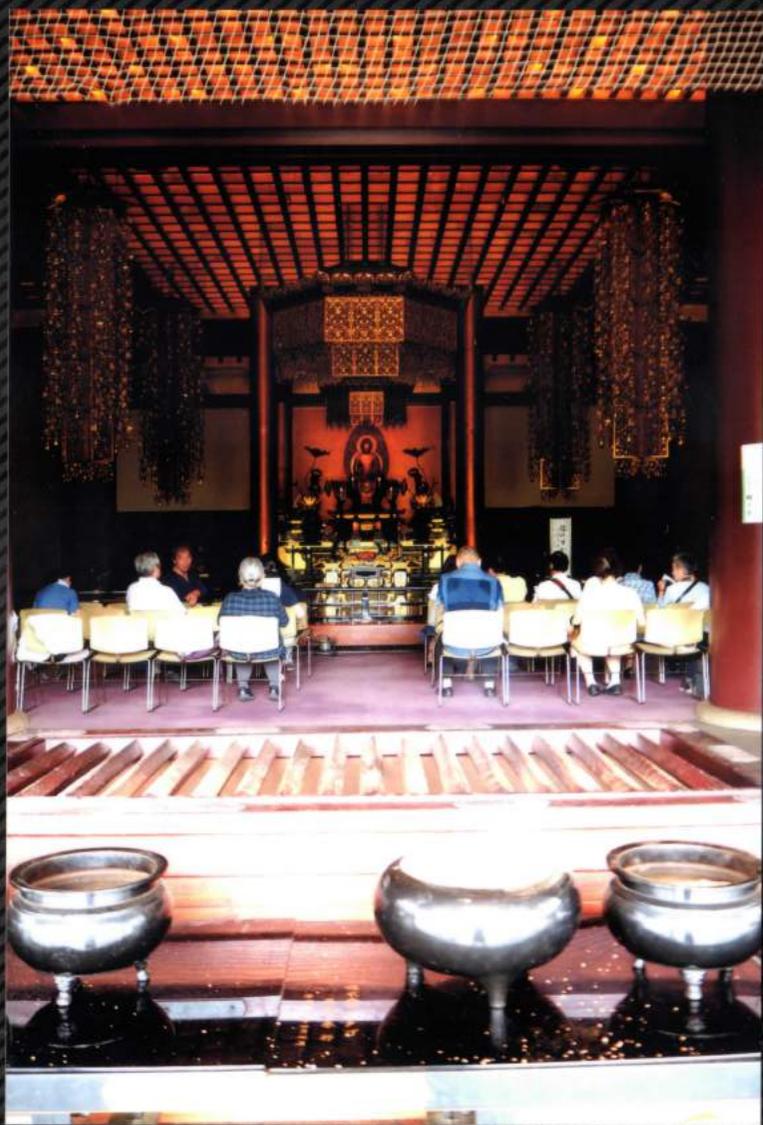
〔御消息・昭法全五七七〕



極樂浄土に往生したいと思う人の心がまえについて『觀無量壽經』には「極樂浄土に生まれたいと願うものは、三種の心をおこ發したならば往生できる。三種とは一つには至誠心、二つには深心、三つには廻向發願心である。この三心を具えたものは必ず極樂浄土に往生する」と説かれています。

「三心を具えたならば必ず往生する。そのうち一つでも欠けることがあれば往生は叶わない」と善導大師が解説されています。からには、往生を願う人は必ずこの三心を具えるべきです。しかしこのように言いますと、三心は何やらまちまちで仰々しいもののように思われるでしょうが、心得てみれば、実は具えやすい心なのです。要は、ただまことの思いで、阿彌陀さまの本願におすがりして、往生を願う心なのです。

〔御消息・ 昭法全 五八四〕



◆ 誠の心

く 至誠心 く ◆

善導大師は、三心を解釈して「はじめの至誠心とは、至とは真の意、誠とは実の意である」と説明しておられます。

〔浄土宗略抄(鎌倉二位の禅尼に進ぜられし書)・昭法全五九三〕



◆深く信じる心　く深心く◆

深心について、善導大師は二つに分けて解釈しておられます。一つは「この私は煩惱にまみれて罪を犯し、生死の迷いの世界をさまよひ続ける凡夫である。覺さとりを得るような善い行いも少なく、遠い過去の世界から永い間迷いの世界を流転して、迷いの世界を離れようにも、その縁すらない身である」と直視するのです。二つは「阿弥陀さまは、その成就なされた四十八願の働きをめぐらして衆生をお救い下さるのですからお名号を称えるならば、たとえ十遍であろうと一遍であろうと、阿弥陀さまの本願力に乗じて必ず往生するぞ」と信じて、ただの一遍も疑う心がないので深心と名付けるのです。

〔御消息、昭法全五七九〕



◆ 振り向ける心　　く 廻向発願心　　◆

廻向発願心とは、これと言って特別な心を言うのではありません。私たちがこれまで修してきたあらゆる行の功德をただひたすら振りむけて極樂往生を願う心のことです。

〔大胡の太郎実香へつかはす御返事・ 昭法全五一九〕



◆ 異解いげの人には ◆

お念仏を信じない人たちに会っては論争したり、お念仏以外の行を修している、私たちと異なる理解の人たちに向かって議論してはいけません。私たちと異なる理解や修行をしている人たちに会った際には、おやみに侮あなどったりし誹そしったりしてもいいません。そんなことをすれば、かえって彼らは浄土の教えを非難し、それによって、ますます重罪の人にさせてしまうのは気の毒なことです。

〔鎌倉二位の禅尼へ信ずる御返事、昭法全五三一〕



◆よこしまな心◆

往生を願う心のない人には、たとえどれほど手を尽くして説明しても、念仏の道理は、決して納得してもらえないものではないありません。「津戸三郎へつかわす御返事（十月十八日付）・昭法全五七〇」

「一念往生の義」が、この京の都にもたいぶ広まっております。まったく言語道断のことです。…そんなてたらめを広める人は仏法に従っているふりをして正しい教えを妨げる外道であり、「獅子身中の虫¹」です。また、そうした人々は天魔波旬²の仕わざによって、教えを正しく理解することを妨げられたのであり、他の多くのお念仏の行者の邪魔をするのではないかと疑われます。本当にとんでもないことであり、実に恐ろしいことです。「越中国光明房へつかわす御返事・昭法全五三七〇五三九」

¹ 獅子身中の虫：獅子の身中に住んで、これの恩恵を蒙っている虫が却って獅子の肉を食って害毒を与える虫の意。仏教徒でありながら、仏法に害をなすことのたとえ。

² 天魔波旬：第六天王波旬のこと。すなわち仏道修行を妨げている魔のことである。

近頃往生のためには一遍のお念仏で充分なのだから、その後のお念仏はもう必要がないといった説が出てきていることは、おおむね伝え聞いております。もちろんいうに足りない点とんでもないことではありませんか。そのように言っているのは經文や論書から離れて勝手なことを言っている人なのでしようが、そういう文証もんしんしょうでも手にしたのでしようか。そんなはずはありません。誠に不審に思います。また、深く阿弥陀さまの本願を信じる人は戒律を破っても気にすることはない、などという説については私にお尋ねになるまでもありません。そんなことを言う人は仏法に従っているふりをして正しい教えを妨げる外道であり、ほかに例を見ることができません。

〔基親の書信並びに法然上人の返信　・　昭法全五四九〕





三、心からの懺悔

必ず往生ができるとの信がおきても、それ以後お念仏を称えることなく、また罪を犯しても取るに足らないからといってこれを懺悔しなければ、自ら往生を遂げがたくしていることになるのです。

〔九條兼実の問に答ふる書（其二） 昭法全六〇九〕



